

新人研修について

H27.3.18

《目的》

新人研修は新人看護師のリアルティショックを緩和し、職場にスムーズに適応できるように支援することを目的とする。

職場の環境になれ主要な看護技術を基本に基づき計画的に習得していくには研修スケジュールをもとに指導していくことが重要です。

《研修目標》

1. リアルティショックを克服し、看護職員としての意識を高める。
 - ① スタッフとのコミュニケーションが取れ、自己の意見や思いを伝え、必要な助言を受けることが出来る。
 - ② 自己の看護への思いを表現し、看護観を深める。
2. 尾鍋外科病院の職員としての役割や業務に必要なルールについて理解する。
 - ① 尾鍋外科病院の理念、看護の心、方針、組織活動について言える。
 - ② 尾鍋外科病院の職員として患者対応ができる。
3. 主要な看護技術が基本を踏まえて、安全に、安楽に実践できる。
 - ① 観察技術を活用し、患者の状態が適切に観察できる。
 - ② 主要な日常生活の援助技術が実施できる。
 - ③ 主要な診療の援助技術が実施できる。
 - ④ 看護記録の必要性を理解し、看護記録記載基準にそって記録できる。
4. 複数の患者の看護が優先度を考えて実践できる。
 - ① 患者の全体像を把握し、個別性のある援助計画が立案できる。
 - ② 患者の優先度を考えて実践できる。
 - ③ 看護チームの一員として自覚し、医療、看護スタッフと協働、連携できる。

《今年度の取り組み》

入社時オリエンテーション、最低限毎日の業務の中で習得してもらう看護技術について項目を上げ、看護業務手順をもとに、担当看護師が説明、実施を行った。

【反省】

*勤務の合間に時間指定がないまま指導に入ること、勤務に支障が生まれ、精神的にも落ち着かなかった。

*指導を受ける新人看護師は、ゆとりのない詰め込み式になったように思う。

《来年度の取り組みについて検討》

- ・指導者は勤務から離れ、説明、デモスト、実施、反省、質問までゆとりを持って理解出来るように指導する。
- ・達成するまでの日数はスケジュール表を目安とする。
- ・指導者同士がミーティングし進行状態を知り、申し送りを受けながら連携する。
- ・どの病棟が何人受け入れられるのか。
- ・経験のある人、無い人、パートの学生さんなどおられるため研修スケジュールは個別的にしておく必要がある

新人看護師年間目標

- ①指導を受けながら基礎的看護技術を習得し、安全・安楽に実施することができる。
- ②チーム医療における自らの役割を理解し、チームの一員として看護業務ができる。
- ③指導を受けながら看護計画に沿った看護実践ができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務スケジュール	職場の環境に慣れる	入院受け、オリエンテーション、アナムネ聴取など入院に関する一連の業務を学ぶ事ができる	土曜日午後の業務を指導のもと行う事ができる	土曜日午後の業務を一人でを行う事ができる			夜勤業務の流れを把握し、救急患者の対応ができる	チームメンバーとしての役割が再確認できほかのスタッフの動きを把握して行動する事ができる	一年間の振り返りと次年度の行動目標を持つ事ができる			
		早出勤見習い～自立する事ができる	救急患者の対応ができる	休日業務を指導のもと行う事ができる	休日業務の自立ができる		夜勤を指導のもと行う事ができる	夜勤業務の自立ができる				
	業務手順、看護技術を理解する	各病棟で習得すべき優先順位の高い看護技術の指導を受けながら経験できる		チームの中で患者のケアと日常の業務を一人で進行事ができる。業務の流れを組み立て自ら行動できる。看護技術、日常生活援助の確立。								
		リーダー業務を、指導を受けながら行う事ができる 報告、伝達、申し送りについて学ぶ事ができる	リーダー業務を経験しながら一人でバイタルサイン、一般状態の観察ができる									
	看護計画の立案、評価、修正ができる											
研修行事	接遇について	消火訓練 消火設備の経験	・医療事故、院内感染 ・救急蘇生 ・急変時の対応				消防訓練 (出火を想定した消火・避難訓練)	院内感染研修 医療事故研修				
	1ヶ月面接		3ヶ月面接			6ヶ月面接						年度末面接
看護技術・日常生活援助・診療補助	1.環境	ベッドメイキング、換気、ノゾ予防清掃など										
	2.食事	食事介助、経管栄養の準備、経管栄養食注入の実施、経管栄養チューブの管理										
	3.排泄	坐薬挿入、浣腸、排便、導尿、膀胱洗浄										
	4.活動休息	車椅子、ストレッチャー移乗、移送、体位変換、ポジショニング										
	5.清拭、衣生活	全身清拭、入浴介助、オムツ交換、寝衣交換、口腔ケア、洗髪										
	6.呼吸循環	吸引(口腔、鼻腔、気管内)ネブライザー 酸素療法と管理、気切患者の管理		人工呼吸器の管理								
	7.創傷処置	創傷処置、ガーゼ交換、褥瘡処置、褥瘡予防										
	8.与薬と注射	【与薬】経口薬、経管注入薬の準備・与薬、外用薬、直腸内与薬、薬剤等(劇薬、毒薬、麻薬、血液製剤の発注方法、管理) 【注射】アンプルカット、注射のミキシング、側管からの点滴・静脈注射、皮下注射、皮内注射、筋肉注射、点滴、静脈注射、インスリンの取り扱い・投与、中心静脈点滴の準備・管理、IVHセット交換、輸液ポンプ・シリンジポンプの準備・管理、輸血の準備(発注・クロスマッチ)、輸血中・輸血後の観察、抗生剤の用法と副作用の観察、麻薬の管理、主作用・副作用の観察										
	9.救命救急		意識レベルの確認、救急カートの準備、気道確保、人工呼吸(アンビューバック)酸素、EKGモニターの準備・設置、気管内挿管の準備と介助、心臓マッサージ、徐細動器の準備・介助									
	10.症状生体機能	検体(採決、検尿、検便、培養検査、血液ガス)の取り扱い 血糖測定、バイタルサインの観察・測定、尿量測定										
	12.感染防止	スタンダードプリコーションの実施、必要時防護用具の選択、無菌操作、針刺し事故防止対策実施と対応、医療廃棄物の適切な取り扱い、洗浄・消毒・滅菌の適切な選択										
	13.安全	誤薬予防、転倒・転落予防策、身体拘束、ヒヤリハット報告										
	14.入院時対応	カルテ作成、アナムネ聴取、指示簿、処置伝票の取り扱い										
	15.その他	ナースコール、電話の対応と使用、点滴・注射薬の準備、カルテの見方、指示簿・伝票の書き方、カーデックス、パソコンデータの取り扱い、ごみの分別、エンゼルケア										
	16.特別処置	気管カニューレ交換の準備と介助、尿留置交換、MT・経鼻カテーテル挿入、PEG交換の準備と介助、エコーの準備、IVH準備と介助、胸腔穿刺・トロッカ挿入の準備と介助										